

- 問1 藤原道長の家系を示す記録において、娘の彰子が一条天皇の后となり、さらに別の娘である威子が後一条天皇の、嬉子が後朱雀天皇の后となっている状況から読み取れる、藤原氏が長期間にわたって権力を維持できた理由として最も適切なものはどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- 娘たちがそれぞれ別の荘園を管理することで、藤原家全体の経済基盤を分散させ、財政の安定を図ったから。
 - 天皇を退位させて上皇とし、院政を開始するための準備として娘たちを宮中に送り込んだから。
 - 娘を天皇の后にすることで、武士の勢力を抑え込むための軍事的なネットワークを朝廷内に構築したから。
 - 複数の娘を異なる天皇の后にすることで、どの代の天皇に対しても常に母方の親戚という優位な立場を確保し続けたから。
- 問2 平安時代中期、遣唐使の派遣が停止されたことなどを背景に、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が栄えました。この時期に醍醐天皇の命によって編纂された、日本で最初の勅撰和歌集を次の中から選びなさい。 (2026年 岐阜県公立入試 類似)
- 古今和歌集
 - 山家集
 - 新古今和歌集
 - 万葉集
- 問3 平清盛が、平氏の経済的基盤を強化するために行った経済政策として、正しい事実はどれですか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
- 博多の港に「金印」を保管する施設を作り、中国の漢（後漢）から金や絹を輸入した。
 - 大輪田泊（現在の神戸市）を修築し、中国の宋（北宋・南宋）との貿易を積極的に推進した。
 - 長崎の出島にオランダ商館を移し、幕府が貿易の利益を独占する体制を整えた。
 - 堺や博多の商人に特権を与え、各地の関所を撤廃して楽市・楽座などの商業振興を行った。
- 問4 平安時代の浄土信仰が当時の美術や建築に与えた影響について、「阿弥陀仏」と「極楽浄土」という言葉を用いて説明した文として適切なものはどれですか。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- 阿弥陀仏の教えを否定し、厳しい自然の中で修行することで極楽浄土へ行けると説く山岳信仰が美術に反映された。
 - 極楽浄土の様子をこの世に再現しようとして、阿弥陀仏を本尊とする平等院鳳凰堂などが建立された。
 - 唐から伝わった最新の様式を取り入れ、極楽浄土よりも現世での利益を重視する阿弥陀仏の彫像が数多く作られた。
 - 阿弥陀仏を信じる特定の有力者のみが極楽浄土へ行けるとされたため、閉鎖的な寺院建築が主流となった。
- 問5 平安時代の文化の特色について述べた学習メモにおいて、「中国から取り入れた漢字を簡略化するなどして作られた文字が普及し、日本独自の感情や情景を表現する文学が発展した」という内容があります。この文字の名称と、その文字を用いて書かれた文学作品の組み合わせとして最も適切なものを選びなさい。 (2017年 群馬県公立入試 類似)
- 絵文字 — 鳥獣人物戯画
 - 梵字 — 密教の経典
 - 万葉仮名 — 万葉集
 - かな文字 — 源氏物語
- 問6 奥州藤原氏が本拠地とした平泉（岩手県）は、現在では世界遺産にも登録されています。この地域が平安時代末期に繁栄した歴史的背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
- 領内で産出される豊富な金を、平氏の政権や中国の宋との交易に用いることで、強大な経済力を蓄えた。
 - 石見銀山から産出される銀を独占し、朝鮮半島との直接貿易を行うことで莫大な利益を得た。
 - 関東地方から産出される鉄を管理下に置き、源頼朝と協力して平氏を倒すための武器を量産した。
 - 日本海側の良質な銅を宋へ輸出し、代わりに大陸から最新の製鉄技術を導入して軍隊を強化した。
- 問7 平安時代に興った「国風文化」において、漢字を簡略化して作られた「かな文字」が普及したことにより、日本の文化にどのような変化がもたらされましたか。その説明として最も適切なものを選んでください。 (2022年 佐賀県公立入試 類似)
- 中国からの公文書を正確に理解するために、全ての公的書類がかな文字で統一されるようになった。
 - 万葉集を編纂するために、大陸から伝わった最新のアルファベットと漢字を組み合わせて使うようになった。
 - 漢字では表現しにくかった日本人の繊細な感情や考えを、文章で自由に表現できるようになった。
 - 仏教の経典を庶民に広めるため、インドの文字を参考にして新しい表音文字が作られた。
- 問8 源頼朝が成立させた鎌倉幕府と、その直前に権力を握った平氏政権の政治体制の違いについて述べたものとして、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
- 平氏は関東の武士を基盤に幕府を組織したが、源頼朝は京都の貴族と結びつくことで政治の主導権を握った。
 - 平清盛は征夷大將軍として全国の武士を支配したが、源頼朝は執権という役職を新設して幕府の仕組みを整えた。
 - 平清盛は太政大臣という朝廷の最高職に就いて権力を振るったが、源頼朝は征夷大將軍として朝廷から自立した軍事政権を組織した。
 - 平氏は地方の武士の不満を背景に天皇に取って代わろうとしたが、源頼朝は平将門の乱を鎮圧した功績で政治の実権を与えられた。
- 問9 1156年に起こった保元の乱に続き、その3年後の1159年に発生した、源氏と平氏の対立を背景とする政変について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2015年 富山県公立入試 類似)
- 平清盛が源義朝を破って勝利し、のちに武士として初めて太政大臣に任命され、平氏が政権を握るきっかけとなった。
 - 足利尊氏が後醍醐天皇による建武の新政に反旗を翻し、京都に武家政権を樹立するきっかけとなった。
 - 後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして挙兵したが敗れ、幕府の支配力が西日本まで及ぶきっかけとなった。
 - 源頼朝が壇ノ浦の戦いで平氏を滅ぼし、のちに征夷大將軍に任命されて鎌倉幕府を開くきっかけとなった。
- 問10 平安時代中期には、紫式部が執筆した『源氏物語』や、清少納言が記した『枕草子』など、優れた女流文学が数多く生まれました。このような文化が発展した理由や背景として、最も適切な説明を選びなさい。 (2025年 和歌山県公立入試 類似)
- 仏教の教えが民衆に広まったことで、現世の不浄を説く物語や、死後の世界を詳しく描く文学作品への関心が高まったため。
 - 遣唐使の停止をきっかけに日本独自の生活様式や感性が重視されるようになり、日本語の音を自由に表現できる「かな文字」が広まったため。
 - 宋との貿易を通じて新しい印刷技術が導入され、宮廷の女性たちが書いた物語が一般の庶民にも広く普及したため。
 - 武士が政治の実権を握り始めたことで、貴族階級の特権を批判し、新しい社会のあり方を提示する文学が求められたため。
- 問11 古代の文化を解説した資料において、漢字を崩したり、漢字の一部を取ったりして「かな文字」が作られていく過程が示されています。このような文字の変化が起きた背景や、その時代の文化の特徴として正しい説明はどれですか。 (2020年 滋賀県公立入試 類似)
- 飛鳥時代から続く律令政治を強化するために、遣唐使が持ち帰った最新の知識を民衆に分かりやすく伝える必要が生じ、公用文をすべて「かな文字」で記述する制度が整えられた。
 - 奈良時代に唐の文化を模倣することへの批判が強まり、遣唐使を派遣する代わりに、正倉院の宝物を手本として漢字を使わない独自の国風文化をゼロから作り出す運動が起こった。
 - 大陸からの仏教文化の流入が途絶えたため、正倉院に代表される国際的な文化が衰退し、これに代わる新しい文化を作るために政府が主導して漢字から「かな文字」への移行を命じた。
 - 遣唐使の派遣が停止されたことなどを背景に、それまで取り入れてきた大陸の文化を日本の風土や好みに合わせる工夫が進み、仏教文化を基盤としつつも日本独自の国風文化が形成された。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 複数の娘を異なる天皇の后にすることで、どの代の天皇に対しても常に母方の親戚という優位な立場を確保し続けたから。	道長は複数の娘を複数の天皇に嫁がせることで、どの天皇が即位しても自分が「天皇の祖父」や「天皇の叔父」という外戚の立場になれるよう画策しました。これにより、一過性の権力ではなく、世代を超えて摂政や関白の職を藤原北家が独占できる仕組みを作り上げ、全盛期を築きました。
問2	答え 1 古今和歌集	藤原氏が摂関政治を行い権力を握った平安時代中期には、それまでの唐の影響を消化した日本独自の文化が成立しました。この流れの中で、漢字を簡略化した「かな文字」が普及し、これを用いて編集された最初の勅撰和歌集が、紀貫之らによって選ばれたこの作品です。
問3	答え 2 大輪田泊（現在の神戸市）を修築し、中国の宋（北宋・南宋）との貿易を積極的に推進した。	平清盛は、武力だけでなく経済力によって権力を維持しようと考えました。当時、中国大陆を支配していた宋（南宋）との貿易（日宋貿易）に目をつけ、大型船が入港できるように現在の神戸市にあたる大輪田泊を大規模に改修しました。この貿易を通じて、日本からは金や硫黄などを輸出し、宋からは宋銭（銅銭）や絹織物、陶磁器などを輸入しました。特に宋銭が国内に大量に流入したことは、後の日本の貨幣経済の発展に大きな影響を与えました。
問4	答え 2 極楽浄土の様子をこの世に再現しようとして、阿弥陀仏を本尊とする平等院鳳凰堂などが建立された。	藤原頼通によって建立された宇治の平等院鳳凰堂は、当時の人々が憧れた極楽浄土の光景を表現した代表的な建築です。建物の中央には本尊である阿弥陀如来（阿弥陀仏）像が安置されており、浄土信仰が当時の貴族の美的感覚や建築文化に多大な影響を与えたことを示しています。
問5	答え 4 かな文字 ― 源氏物語	漢字の一部を取ったり、全体を崩したりして作られた「かな文字」の発明は、国風文化における大きな特徴の一つです。これによって、紫式部が著した『源氏物語』や清少納言の『枕草子』など、貴族女性による優れた文学作品が生み出され、日本独自の文化が深まる要因となりました。
問6	答え 1 領内で産出される豊富な金を、平氏の政権や中国の宋との交易に用いることで、強大な経済力を蓄えた。	奥州藤原氏は、東北地方で採掘される「金」を朝廷への献上や宋との貿易に活用しました。これにより、京都の貴族社会とのつながりを維持しつつ、独自の北方交易ルートを築いて平和な独立王国のような繁栄を維持しました。選択肢にある銀や銅、鉄はこの地域の繁栄の主因ではありません。
問7	答え 3 漢字では表現しにくかった日本人の繊細な感情や考えを、文章で自由に表現できるようになった。	平安時代中期、遣唐使の停止などを背景に、日本の風土や日本人の感覚に合った「国風文化」が発達しました。この時期に「かな文字」が考案されたことで、それまでの漢文主体の記述では難しかった個人の微妙な心情や身近な出来事を描写することが可能になり、女性による物語や日記文学などの優れた作品が多く生み出されました。
問8	答え 3 平清盛は太政大臣という朝廷の最高職に就いて権力を振るったが、源頼朝は征夷大將軍として朝廷から自立した軍事政権を組織した。	平清盛は1167年に太政大臣に就任し、貴族と同じような立場で政治を動かす道を選びました。これに対し、源頼朝は1192年に征夷大將軍に任命されることで、京都の朝廷とは距離を置いた鎌倉の地に独自の軍事政権である鎌倉幕府を確立しました。この違いは、武士が単なる貴族のガードマンから、独自の組織を持つ統治者へと進化した過程を示しています。なお、平将門の乱は10世紀の出来事であり、頼朝の時代より200年以上前であるため、選択肢の背景としては不適切です。
問9	答え 1 平清盛が源義朝を破って勝利し、のちに武士として初めて太政大臣に任命され、平氏が政権を握るきっかけとなった。	1159年に起こった平治の乱は、保元の乱の後の恩賞などを巡る対立が背景にあります。この乱で源義朝を破った平清盛は、急速に勢力を拡大しました。清盛はその後、武士として初めて朝廷の最高職である太政大臣に就任し、一族で高位高官を独占するとともに、日宋貿易を推進して平氏の全盛期を築きました。
問10	答え 2 遣唐使の停止をきっかけに日本独自の生活様式や感性が重視されるようになり、日本語の音を自由に表現できる「かな文字」が広まったため。	894年の遣唐使の停止以降、中国の影響を消化しつつ日本の風土や好みに合わせた「国風文化」が花開きました。特に、漢字の音や訓を借りて作られた「かな文字（平仮名）」の発明により、漢字だけでは表現しきれなかった繊細な心情や宮廷の生活を日本語で綴ることが可能になり、紫式部などの女性作家による文学が隆盛しました。
問11	答え 4 遣唐使の派遣が停止されたことなどを背景に、それまで取り入れてきた大陸の文化を日本の風土や好みに合わせる工夫が進み、仏教文化を基盤としつつも日本独自の国風文化が形成された。	平安時代中期、894年に菅原道真の建議によって遣唐使が停止されると、それまで取り入れてきた中国の文化を日本の生活や感情に合うように消化・吸収する動きが活発になりました。この時期に漢字から「かな文字」が作られたことで、日本人の心情を細やかに表現することが可能になり、紀貫之の『土佐日記』や紫式部の『源氏物語』などの優れた文学作品が生まれました。これは、外来の仏教文化などを日本風に変容させた「国風文化」の大きな特徴です。